

目次

- 自己紹介
- 取り組みの背景と課題
- ユニバーサルツーリズムの現在地
- 活動事例
- 2年の活動を通して見えてきたこと
- 今後の取り組み
- おわりに





一般社団法人 INCREW



2022年4月4日に一般社団法人INCREW
設立。兵庫県北部 日本海に近い豊岡市に事
務所を構え、北近畿エリアをメインに夏は水陸
両用アウトドア車いす【ヒッポキャンプ】、冬は
【デュアルスキー】などを用いたユニバーサルなア
ウトドア活動を展開。

クルー紹介



代表理事

西田 紫乃

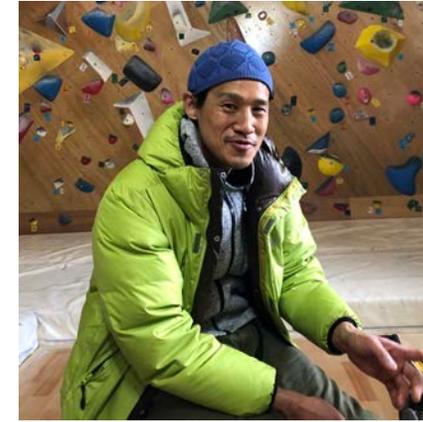
2児の母。2019年、障がいがある次男（小1）の子育てを契機に豊岡市出石町に移住。岡田との出会いをきっかけにアウトドアの楽しさを知り活動をともにする。



フィールドディレクター

岡田 絵美

元教員を経て多岐にわたるアウトドアの経験を生かしインクルーシブな野外活動を展開。現在は自身のインストラクター活動 **Be-field** 主宰と福祉事業所の管理者を兼務。



アクティビティディレクター

齋藤 浩司

ボルダリングジム **Boulder plus** 経営。3児の父。サマーシーズンはシャワークライミングやSUPやカヤックで巡る海辺のフリークライミングツアーなどを展開。

取り組みの背景と課題

行きたいところに行けない < 地域の価値創出

超高齢化

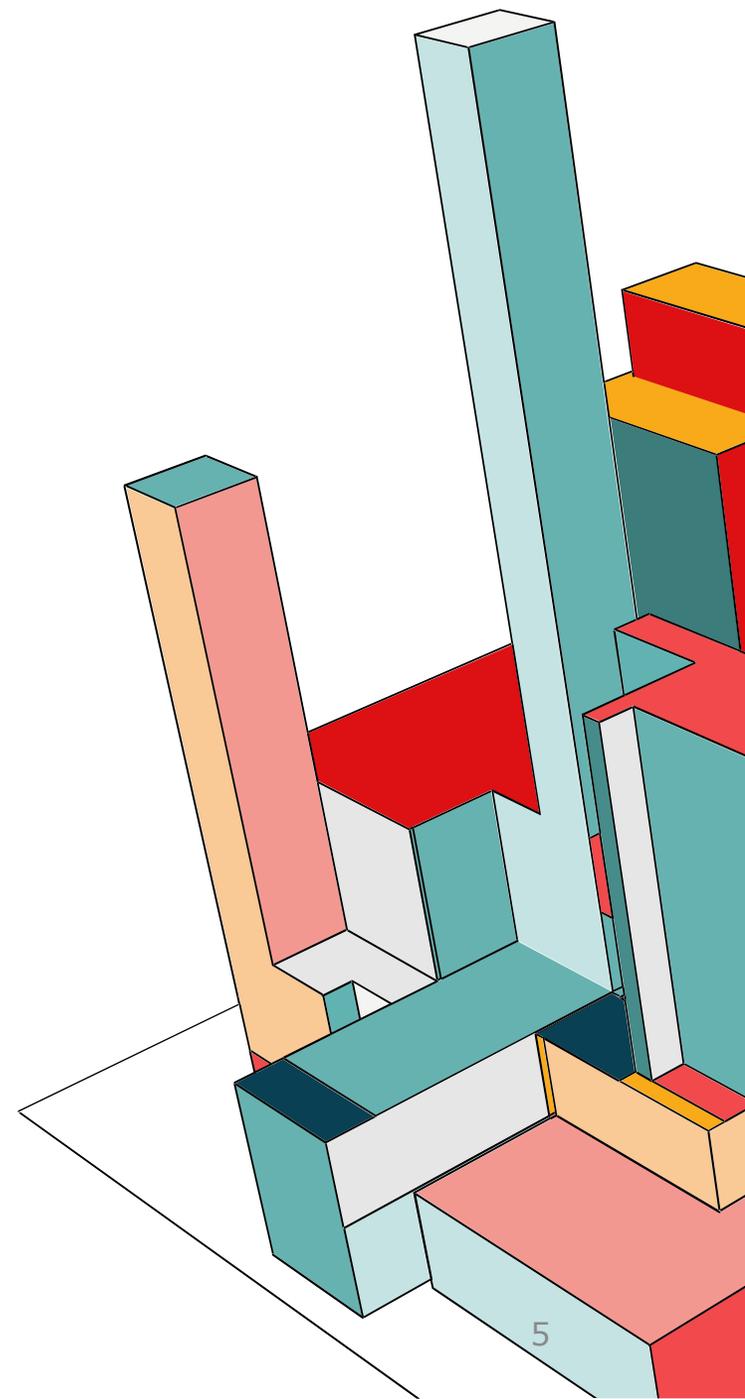
旅行人口減少

人口減少

地方創生

SDGsと多様性

自然豊かで季節ごとのアクティビティが楽しめる地域だからこそ



海外旅行人口

-83.9%

2021年の海外旅行人口前年比

2019年は2000万人突破

2020年は-84.2%の317万人

2021年はさらに-83.9%の51万人

福祉予算増減率

23%

障がい福祉サービス予算

2007年 5380億円

2020年 1兆6374億円

13年で約3倍

人口の高齢者率

35%

2025年 団塊の世代が75歳オーバーを迎える（18%）

65歳以上の高齢者率は

人口の35%を占める

人口の障がい者率

7.6%

高齢者と合わせると

人口の40%近くが

何らかの支援等が必要

時代背景

2015年 9 月

国連サミットにてSDGs採択

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標
17ゴール

2016年 4 月

障がい者差別解消法施行

全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進する

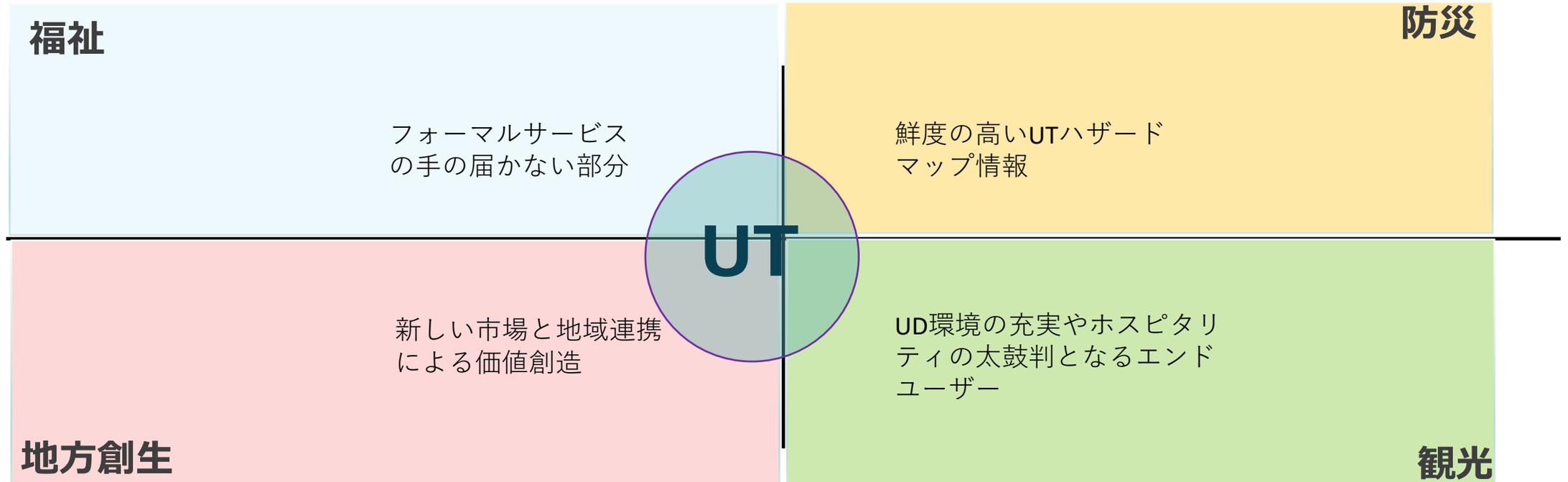
2023年 4 月

兵庫県におけるユニバーサル
ツーリズム推進条例が施行

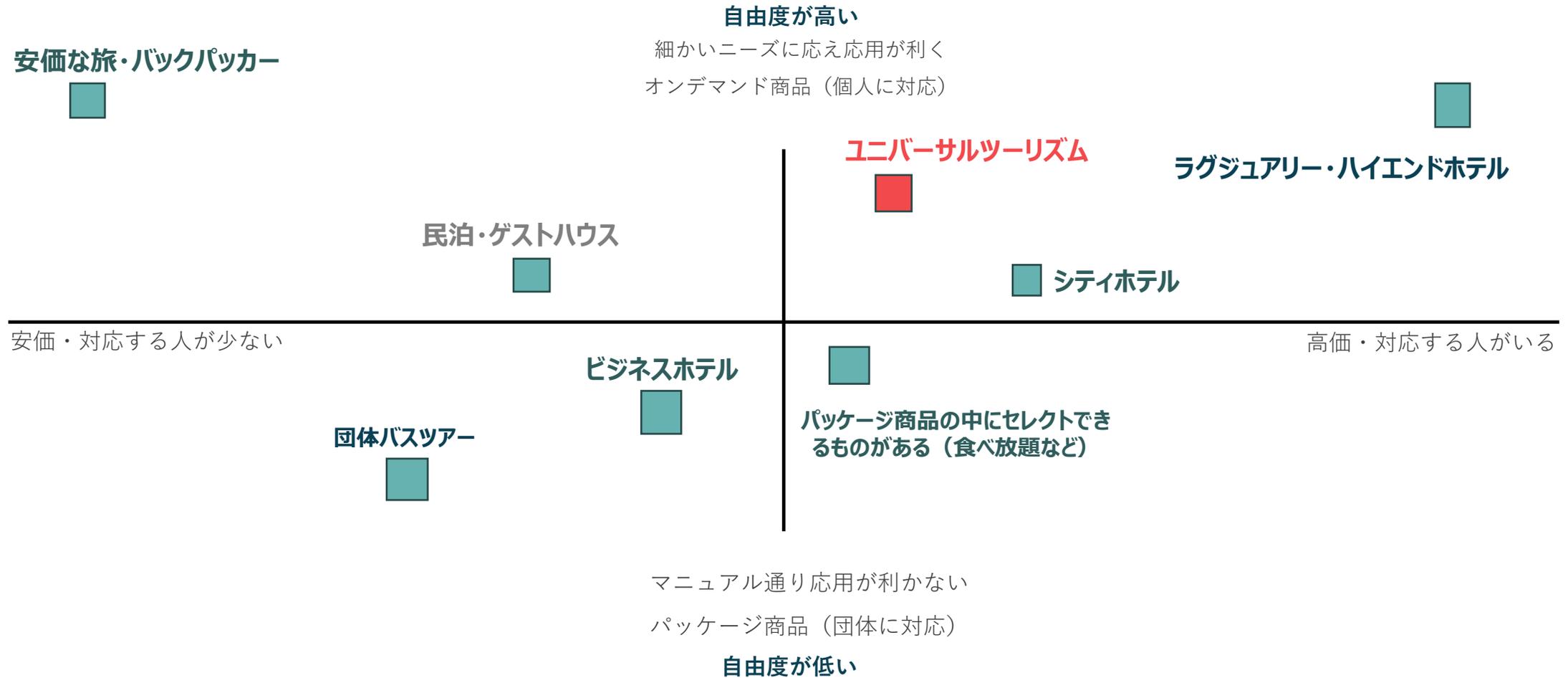
2024年 4 月

障がい者差別解消法に基づき民間事業者における合理的配慮の義務化

ユニバーサルツーリズムの現在地



ユニバーサルツーリズムの現在地





活動事例

2022年～23年の活動



春

ユニバーサルツリーイング

2022年5月16日 兔和野高原 野外教育センター つつじ祭りにて ユニバーサルツリーイング

岡山県より車いすユーザー親子が参加。

下肢が安定しなくてもヒッポキャンプを用いることで安定したツリーイング体験が楽しめる。



夏

ヒッポキャンプ体験会

2022年7月16日18日 竹野青井浜わんわんビーチにて（地域活性化助成事業）

兵庫県下の障がい当事者とご家族、社協関係者、近隣市役所職員、特別支援学校在校生等約20名が。参加。

ヒッポキャンプでのフロート体験やSUPに取りつけたヒッポサップでの海上周遊、家族が操舵するカヌーとの並走などを楽しんだ。



出前授業

芸術文化観光専門職大学生向け 実践講義

2022年9月 芸術文化観光専門職大学にて
学生向け実践講義を実施。

水陸両用車いすの取り扱いと社会の抱える課題

観光モビリティとしての可能性

モビリティ研究チーム4名の学生が参加。座学と
大学周辺、竹野浜へと場所を移し実践講義。

構内では偶然居合わせた文科省伊藤政務官に
もピッコキャンプにご乗車いただいた。



出前授業

小学校にて出前授業

2022年12月1日 養父市立高柳小学校にて。

小学4年生の福祉学習の1コマ。

座学のあとに体育館へ移動し、体育館でヒップキャンプの実践学習。

学級通信の中では、「自分の考えが大きく変わりました」という子どもたちの感想が寄せられた。



冬

デュアルスキー体験会

2023年1月22日・29日 2月5日

おじろスキー場にてデュアルスキー体験会を実施。岡山県、京都府、三宮、姫路などから障がい当事者とそのご家族ご友人など延べ30人が参加。

おじろスキー場、香美町、日高神鍋観光協会、全但バス但馬ドーム、兵庫県肢体不自由児者協会、日本障がい者カヌー協会、アンジェルマン症候群エンジェルの会、出石特別支援学校、和田山特別支援学校などから関心、興味をいただき県立芸術文化観光専門職大学の助教などUT観光研究実践事例として視察に来られた。

神戸新聞、日本海新聞、毎日新聞掲載 NHKlive love ひょうご放映。





講演会

UD観光の未来講演会@那覇

2022年12月 那覇にて。

沖縄バリアフリーネットワーク会議の親川修氏
車椅子トラベラー三代達也氏

沖縄や海外の先進的な取り組み事例を学ぶ
機会となりました。

関西からのリアル参加者や那覇の車いすユー
ザーの方など27名参加のハイブリッド開催

リアル参加 10名 オンライン参加13名
延べ27名参加





2023夏

ヒッポキャンプ体験会

2023年7月の連休の2日間で体験会を開催。青井浜にて。

ヒッポキャンプ水中、フロート体験、ヒッポサップ、カヌー体験など。

障がい当事者11名

ご家族様 23名

スタッフ 11名

2日間で延べ55名の方がご参加くださいました！



2023夏

大蔵海岸 ヒッポキャンプ体験会

2023年 8月 明石高専大塚研究室の学生ボランティアとともにヒッポキャンプ体験会を実施。

県下でも珍しい「電車でアクセスできる海」

都市型海岸公園で多目的広場、大型BBQサイト、子供用広場、がありジョギングや釣りをする人の姿も多くスポーツショップ、スポーツクラブ、スーパー、スーパー銭湯も近隣に立ち並ぶので訪れる人の目的は様々な立地。

当日は6家族の方に体験を楽しんでいただきました。





豊岡演劇祭2023

バリアフリーサポート

豊岡演劇祭における学生バリアフリーチームの観劇実習のサポートを実施。

障がい者福祉にまつわる座学から、観劇という実際の当事者様とのかかわりの実習。

介護タクシーにもご協力いただき他地域から来られる方が観光目的地に着くまでの流れを実習体験。

観劇と野外劇。両方とも参加者様にはいつもと違う非日常を体験していただきました。

劇場でも映画館でももっと事前情報があれば出向けるのになあ。というお声がありました。





2年目の活動で 見えてきたこと

ほんとはもっと楽しみたいんだ！

ヒッポキャンプ体験会を7月に2日間開催。昨年は1000円。今年は3,000円＋駐車場代＋保険料を徴収。昨年度と比較すると2倍以上の参加者とボランティアスタッフが参加（延べ55人）

リピーターの方が多く参加動機のほとんどが「受け入れてくれる人、場所があるのがわかってるととてもハードルが低くなる」との意見が多くありました。受け入れ態勢が整ったユニバーサルなアウトドアが実施される場所であれば人は「楽しみにやってくる」ということがより明確に実感できました。



大切な人と 楽しみたい

初回参加 「場所」「アクセス」「トイレや休憩」「エスケープ環境」「人」「どんな体験ができるか」

「安心・安全」の担保→「楽しみ」

リピート参加 一緒に楽しみたい人と来る・人数・滞在時間も長めになる傾向

但馬圏外からの参加が多い

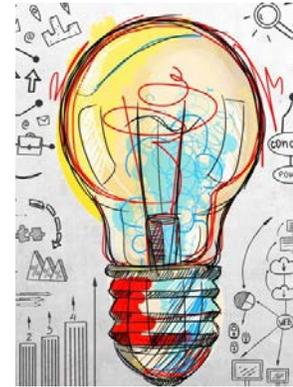
受け入れ態勢のないところで嫌な思いをしたくない。傷つきたくない。

受け入れ側に迷惑をかけたくない。(時間がかかる、注文や要望が細かく多くなる)



- ・トイレの確保
- ・更衣スペース
- ・日陰の確保（体調管理）
- ・あと数センチ！あと数メートル！のバリア
- ・施設の詳細の事前情報の少なさ
- ・下見とシュミレーション
- ・アクセス環境 一次交通と二次交通
- ・問い合わせしたいのになかなか「人」につながらない
- ・環境に応じた持ち物・服装・準備物
- ・参加者の特性に合わせた対応・接遇
- ・体験会開催の目印となるもの、のぼり等
- ・スタッフとわかるTシャツなど
- ・そもそも参加をあきらめてる人にどう訴求するか

課題 改善点



工夫次第で解消できるもの

どうにもならないものを
どう提言していくか

- ・一次交通利用時のバリア
- ・二次交通との連絡がスムーズではない
もしくは二次交通が十分でない
- ・浜辺までウッドデッキが設置されているが
あと数十メートル先の海まで到達できない
- ・ハードは素晴らしく設備されているのに中
のスタッフにユニバーサルな対応接遇の教
育がされてない
- ・広い優先駐車場と最新のユニバーサルト
イレを設置しているのに、入り口のたった3
段の階段がバリアになり「観光」すること
ができない

絵にかいた餅にしな
いたために

実際に現地で餅を焼
いてみよう＝実践！





INCREWが 大切にしたい 3つのこと

知る
見つける
体験する

ASSIGN 役割を知る

自分を知る 相手を知る
現在地に落とし込む

どんな人も得手不得手があります。

心、体、理解の可動域。

事前アセスメントでお互いの可動域を知り、
無理のない範囲に落とし込む。

自分の現在地を知り、ストレングスを最大限
に生かし、一歩進んだチャレンジへ。



FIND

一緒に見つけ考える

「やりたいこと」と「できること」
環境を整えば叶うこと
誰かの助けがあれば実現できること

理想と現実の客観視。
ハード（環境・システム）
ソフト（人・道具・アイデア）

あらかじめZOOM面談で当日が初対面とならないよう事前に不安の解消、安心の意識づけ。緊張の解消。



ENJOY 一緒に楽しむ

縦並びの関係ではなく
横並びの関係で
まずは体験からはじめよう

提供する側・される側
お世話する人・される人

にならないために。
自分でできることはやる。そのため
に待つ。
過剰にヘルプしない。
無理なく一緒に楽しむ。



具体的なHELPを出せなかった自分

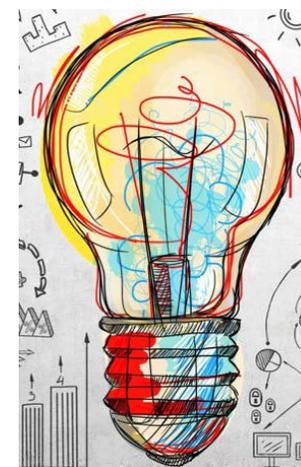
周囲に手伝ってくれる人はたくさんいたのに
うまくHELPを伝えられず一人で抱えてきた

つらい気持ち、自分ばかりという気持ちを膨らませ
た時期があった

助けてほしい、手伝ってほしいといえる環境

「お手伝いが必要ですか？」という言葉と同時に数
分で済む具体的な行動が必要。

具体的な HELPを 出せる繋 がり



障がい当事者やご家族の潜在的なニーズは
まだ深いところにある

本当はこうしたい！という希望にまでつな
がっていないことが多い

そのために小さなHELPを具体化してい
く必要がある



出かけた先で出会う 景色・出会う人

体験に勝るものはなく、理由や大義名分、エビデンスなどは後からついてくるものである。

まずは体験をすること。勇気を出して出かけた先だからこそ見える景色と体験がある。

それ以上に人との出会いとつながりができる。

心のバリアは周囲の健常者の中だけでなく、障がい当事者や家族の中にも根深くある。

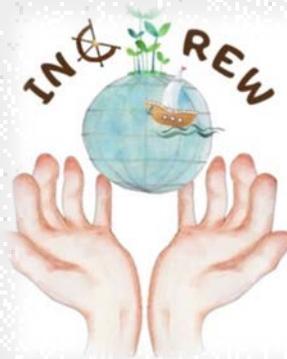
それを取り除くためにまずハードを整えること。

そしてソフトを充実させ、その種類や質が豊かであることが大切。



ありがとう
ございました

beincrew.com



InstagramやHPで
活動をチェック!

